第 33 回日本抗ウイルス療法学会 学術集会・総会

2025 年 8 月 21 日 第 1 日目

開会式 12:55-13:00

一般演題 肝炎(1) 13:00-14:12

座長 榎本信幸 (山梨大学医学部消化器内科)

坂本直哉 (北海道大学大学院医学研究院)

1. HIV 感染者における高感度 iTACT-HBcrAg(Core 関連抗原)の検討
古賀道子 (東京大学医科学研究所)
2. 第 3 世代シーケンサーを用いた 1 分子ロングリード・シーケンシングを用いた B 型肝炎全ゲノム解析による病態解明
松田秀哉 (山梨大学消化器内科)
3. HBV 感染者における PreS1 に対する液性免疫の検討
由雄祥代 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 免疫病態研究部)
4. 一細胞空間解析を応用した B 型肝炎のリスク評価法の開発
松田道隆 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 肝炎・免疫研究センター 疾患研究部)
5. B 型肝炎ウイルス X タンパク質の構造機能解析
田中大貴 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 ウイルス構造機能研究部)
6. 低分子 JAK 活性化剤 CDM-2020 の開発
古谷裕 (東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座)

一般演題 HIV/AIDS (1) 14:20-15:20

座長 岡慎一 (国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター)

渡辺恒二 (東海大学医学部基礎医学系生体防御学領域)

7. タンザニアで流行する HIV-1 遺伝子多型がカプシド阻害剤の感受性に及ぼす影響の解析
豊田真子 (熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター 感染免疫学分野)
8. HIV-1 Capsid 阻害剤 Lenacapavir に対する耐性関連変異に関する研究
大出裕高 (独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター 感染・免疫研究部)
9. in silico を起点とした HIV-1 カプシドタンパク質を標的とする低分子型抗 HIV-1 剤の創製研究
小早川拓也 (東京科学大学 総合研究院 生体材料工学研究所)

10. 新規 HIV-1 capsid 阻害剤の共有結合維持と抗 HIV 活性の強化
中村朋文 (熊本大学大学院生命科学研究部 血液・膠原病・感染症内科)
11. 構造生物学的アプローチによるレナキャパビルの HIV-1 感染性ウイルス粒子形成阻害機構の解析
町田晋一 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 ウイルス構造機能研究部)

一般演題 COVID-19 (1) 15:30-16:18

- 座長 石坂幸人 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所)
三隅将吾 (熊本大学大学院環境分子保健学分野)
12. 次世代シーケンシング解析を用いた HIV 感染者における長期持続 SARS-CoV-2 感染ゲノム進化と免疫応答の解析
川島亮 (国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター)
 13. SARS-CoV-2 長期持続感染 HIV 患者における SARS-CoV-2 のウイルス学的解析
土屋亮人 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
 14. スパイク蛋白質による ACE2/ALK1 を介した SMAD5 活性化
寺竹洋一 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 難治性疾患研究部)
 15. COVID-19 後遺症リスク因子としての血中スパイク蛋白質
松永章弘 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 難治性疾患研究部)

一般演題 HPV、インフルエンザ、ARI 16:30-17:18

- 座長 由雄祥代 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 免疫病態研究部)
杉山真也 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 感染病態研究部)
16. MSM における肛門 HPV ウイルスの有病率、新規感染率と消失率
安藤尚克 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)
 17. AFAB トランスジェンダーにおける HPV 関連疾患予防の課題と情報格差—パーソナルヘルスクリニック ジェンダー外来の実態調査から考える—
池袋真 (パーソナルヘルスクリニック)
 18. 抗インフルエンザ創薬に向けた研究開発
鎌田伸好 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 難治性ウイルス感染症研究部)
 19. 東京都における急性呼吸器感染症 (ARI) 症例のウイルス検出状況
黒木絢士郎 (東京都健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科)

イブニングセミナー 17:30-18:30

- 座長 松下修三 (熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

E1-1. 日本における抗 HIV 療法の変遷

松下修三（熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター）

E1-2. 抗 HIV 治療の Up-to-date ～これまで成し遂げられたこと・今まだ残る課題～

今橋真弓（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター感染・免疫研究部）

E1-3. 持効性注射剤の臨床的評価

安達英輔（東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科）

2025年8月22日 第2日目

モーニングセミナー1 9:30-10:30

座長 考藤達哉(国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 肝炎・免疫研究センター)

M1-1. HBV cccDNA と宿主蛋白との相互作用

大塚基之(岡山大学学術研究院 医歯薬学域 消化器・肝臓内科学)

一般演題 肝炎(2) 10:40-11:16

座長 田中靖人(熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学講座)

20. 当院における急性C型肝炎

上村悠(国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター)

21. C型肝炎ウイルス排除前後におけるケモカイン動態の半網羅的解析と肝病態進展との関連
前川伸哉(山梨大学消化器内科)

22. C型慢性肝炎患者のウイルス排除後の肝予備能・線維化の改善と血中遊離アミノ酸の変化
美野正彰(国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 消化器・肝臓内科)

一般演題 HIV/AIDS(2) 11:30-12:30

座長 佐藤賢文(熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

岩谷靖雅(独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター感染・免疫研究部)

23. 当センターにおける新規HIV-1診断例の薬剤耐性検査と分子疫学的解析

林田庸総(国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

24. HIV-1カプシド変異・遺伝多型の分子疫学的解析

松田昌和(独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター 感染・免疫研究部)

25. 本邦で未治療時に検出されたHIV薬剤耐性変異のクラスター寄与

菊地正(国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 エイズ研究センター 第一室)

26. CXCR4多量体形成が関連したHIV-1感染機序の解明と治療薬の探索

中田浩智(熊本大学大学院生命科学研究部 血液・膠原病・感染症内科学)

27. 侵入阻害を目的とした抗体薬物複合体の創製

玉村啓和(東京科学大学総合研究院生体材料工学研究所)

ランチョンセミナー 12:40-13:40

座長 瀧永博之(国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

L1-1. cART 治療下における HIV リザーバーの臨床的意義と将来への展望

前田賢次 (鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

L1-2. HIV 領域における薬剤耐性を再考する～将来を見据えた治療戦略～

中田浩智 (熊本大学病院 感染免疫診療部)

一般演題 ヘルペス、ATL、MPOX、エコーウイルス 13:50-14:50

座長 鎌田伸好(国立健康危機管理研究機構国立国際医療研究所 難治性ウイルス感染症研究部)

松田幸樹 (鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

28. ヘルペスウイルス UL26 プロテアーゼの活性および基質特異性の解析

小川健司 (日本大学生物資源科学部 獣医伝染病学研究室)

29. 網膜色素上皮細胞株におけるアシクロビルとアメナメビルの抗ヘルペスウイルス効果の差異と要因の解析

武本眞清 (北陸大学薬学部)

30. HTLV-1 Intragenic Silencer Element: A Potential Target for Antiviral Immunotherapy

佐藤賢文 (熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

31. 血清抗体価から推定する MSM における未診断エムボックスの実態

中本貴人 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

32. エコーウイルス 11 型感染症に伴う新生児急性肝不全の多発について

酒井愛子 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所 感染病態研究部)

一般演題 HIV/AIDS (3) 15:00-16:12

座長 玉村啓和 (東京科学大学総合研究院生体材料工学研究所)

菊池嘉(国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター)

33. UGT1A1 および CYP3A5 遺伝子多型が持効性注射剤の血漿中カボテグラビルおよびリルピビルン濃度に及ぼす影響

矢倉裕輝 (独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター臨床研究センターエイズ先端医療研究部)

34. HIV-1 Vif による APOBEC3H の不活化における構造学的分子基盤

岩谷靖雅 (独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター 感染・免疫研究部)

35. 国内進行性多巣性白質脳症症例における HIV 感染と髄液 JC ウイルス量の関連: 抗レトロウイルス療法導入有無による比較解析

中本貴人 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

36. HIV/HBV 共感染患者における HBs 抗原クリアランスに影響する因子の検討

高林学（熊本大学病院薬剤部）

37. 血友病合併 HIV/HCV 重複感染による肝硬変患者に対する CBP/ β -catenin 阻害剤 OP-724 の安全性、有効性を検証する医師主導治験（第 II 相試験）

木村公則（東京都立駒込病院肝臓内科）

特別発言

わが国の HIV 感染抑制と陽性者支援のためのプロジェクト<ZERO transmission in Japan by 2030>について

白阪琢磨（公益財団法人エイズ予防財団）

一般演題 COVID-19 (2) 16:20-16:56

座長 上野貴将（熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター）

38. SARS-CoV2 のメインプロテアーゼ阻害剤耐性獲得機序の解明と耐性ウイルス株にも有効な抗ウイルス薬の開発

服部真一朗（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所）

39. ハロゲン原子を導入した SARS-CoV-2 パパイン様プロテアーゼ(PLpro)阻害剤の構造活性相関研究

辻耕平（東京科学大学総合研究院生体材料工学研究所）

40. 2,6-Di-O-methyl-3-acetyl- β -cyclodextrin による SARS-CoV-2 感染阻害作用：ウイルスエンベロープのアミノリン脂質を標的とした分子メカニズム

三隅将吾（熊本大学大学院環境分子保健学分野）

特別講演 17:10-18:10

座長 満屋裕明（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所）

- S1. HIV 感染と循環器疾患 血友病を中心に

廣井透雄（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 循環器内科）

2025年8月23日 第3日目

モーニングセミナー2 9:30-10:30

座長 瀧永博之 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

M2-1. HIV 感染者における HBV の予防と治療

水島大輔 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

M2-2. これからの HIV 感染症治療－合併症管理の重要性を含めて

吉村幸浩 (横浜市立市民病院 感染症内科)

一般演題 HIV/AIDS (4) 10:40-11:28

座長 吉村和久 (東京都健康安全研究センター)

照屋勝治 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)

41. 長期 HIV 感染者における残存リザーバーサイズと慢性炎症および合併症リスク

松田幸樹 (鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

42. HIV-1 感染に伴う細胞代謝変動がウイルス産生亢進状態を形成する機構の解明

岸本直樹 (熊本大学大学院環境分子保健学分野)

43. わが国における HIV 感染症のゼロトランスミッションに向けた数理疫学的研究

尾又一実 (慶應義塾大学)

44. 民間クリニックの検査事業から考える real-world における STI・性行動の実態：PrEP とのシナジーに関する検討

石内崇勝 (一般社団法人天照会いだてんクリニック)

日本抗ウイルス療法学会 総会 11:40-12:20